

二〇二六年度

二月二日午前入試

国語 (45分)

注意

- 1 開始の「チャイム」が鳴るまでは、中を見てはいけません。
- 2 答えはすべて解答用紙の解答らんには、はっきり書きなさい。
- 3 終わりの「チャイム」が鳴ったら、とちゅうでもやめなさい。
- 4 問題のページは、3-1 から 3-13 まであります。

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(字数制限のある場合は、句読点や記号も字数に数えます。なお、1～7は段落の番号です。)

① チャットことばとコミュニケーション

SNSを中心に、自分の考えを発信することがごく当たり前の時代になってきました。^①しかし、LINEやフェイスブック、X(旧ツイッター)などを、メディアだと思って使っている人は、そう多くはないはずです。

LINEのトーク機能は、お互い^{たが}が知り合っていたり一つのコミュニティを形成している仲間で運用されています。フェイスブックは、「友達」と「公開」などを^{せんたく}選択する機能が付いています。Xは、非公開にしない限り、基本的に誰も^{だれ}が読むことのできるオープンなメディアです。そのため、炎上騒ぎ^{えんじょうさわぎ}が起こるのは主にXにおいてです。多くの場合、それを巨大なメディアだと意識していないことに原因があるからです。

LINEやフェイスブックの一部が、知り合いや仲間同士の「閉じられたコミュニティ」であるのに対し、Xは基本的にまったく面識のない人ともやり取りのできる「開かれたコミュニティ」を形成していると言えます。こうした[※]プラットフォームでのやり取りは基本的に、「チャット」という文字を通してのおしゃべりです。おしゃべりや会話は、もともと閉じられたコミュニケーション手段です。

オープンなコミュニティの中で、おしゃべりという閉じられたコミュニケーション手段を使うことに、そもそも^{むじゆん}矛盾があるのです。しかも、チャットは独特の文化を生んでいます。

たとえば、「ばねえ」は、「半端^{はんぱ}ではない」の省略形「はんぱない」がさらにつづまった形で、程度を強調する意味合いがあります。「とても面白い」という意味で使われますが、「まったく受けていない」という逆の意味になったりもします。「それな」は「まさに」「そうだね」という、あいづちにも似た表現です。

「草」は、「笑」のローマ字表記「warai」から「笑」を「w」と表記し、さらにそれを重ねた「ww」がネット上で使われるようになりました。その形が「草」に見えるからという何とも遠回りした表現です。こんな具合に、ことばを解説することが^は恥ずかしくなるくらい感覚的な表現です。

^③ これらが、すべてSNSの中から生まれた表現だとは言えないにしても、若者を中心とした仲間うちで使われることばの省略は、それまでの話しことばとも異なる「チャットことば」^④として、形づくられたことは確かです。

こうした仲間うちで使われる「チャットことば」は、はなから第三者を意識していません。それがXなどで使われるのは自然な流れかもしれませんが、オープンな巨大メディアで使われることによる矛盾もはらんでいます。「チャットことば」は^{がい}概して直感的・感覚的です。そのため、読み手の情動に大きく^{えんきよう}影響を与え、思考の助けになるといふより、好き・嫌い^{きらひ}という二者択一^{たたくいつ}の感覚で受け止めがちです。それが、過激なことば[※]となって^{ぞうく}増幅する作用があります。

大学の講座で学生に文章を書いてもらうと、直感的・感覚的なことばを使うことに慣れているためか、第三者に伝えるべきことばが、チャットことばに近い感覚になっている場合が増えていきます。

新聞や雑誌などが、チャットことばや話しことばではなく、^⑤書きことばを基本としているのは、客観的に第三者に伝えることを前提としているからです。もちろん、ラジオやテレビでもバラエティーを除いた番組、特にニュースでは、書きことばを基本とした話しことばを使っています。

第三者に伝わるようにするには、単に書きことばを使えばいいのではなく、それによって、「閉じられたコミュニケーション」から「開かれたコミュニケーション」手段として、過不足のない文や文章にすること

が重要なのです。

文や文章の基もとになるのが「ことは」です。ここでいう「ことは」は、単語・語彙ごいのことではありません。感情や思想が、音声または文字によって表現されたものを言います。それは、その社会に共通した認識にんしきのもので意味を持つものでなくてはなりません。そのためには、ことはを情報に変えていくべきなのです。それはなぜなのかを説明する前に、「情報」について、考えていきます。

2 ヒト・モノ・コトを変化させる記号としての「情報」

僕ぼくたちは「情報」ということを、頻繁ひんぱんに使っていますが、それがどういうものなのかをあまり意識していません。改めて情報について、整理していきたいと思います。

情報は、「ヒト・モノ・コトを変化させる記号、またはその集合体」として捉えらるとらわりやすいと思います。

「ヒト」は文字通りわれわれ人間です。情報は、人の意識・判断・行動に影響えいきょうを与え、変化を促うながします。生体系の情報⇨遺伝子もここに含まれると考えるとよいと思います。たとえば、気象予報で台風の強さ、今後の進路などが伝えられると、飲料・食料の備蓄びちくをはじめたり、早めに避難ひなんしたりするなど行動を変化させます。人の判断・行動を変化させる根拠こんきょとなります。

「モノ」は社会に存在する多様な道具で、システムや構造、それを構成する要素を指します。1995年のWindows 95の発売をきっかけに、社会の構造は大きく変わりました。コンピュータが身近になりました。僕がワープロからパソコンに切り替えたのは、1998年です。勤めていた新聞社でも紙と鉛筆えんぴつの時代から、パソコンで原稿を書くようになり、校閲部門では手書きの原稿と印刷されたゲラの照合作業はなくなりしました。その代わり、書籍資料やネット上の情報などを使って原稿の整合性を確認するファクトチェックに重きが置かれるようになりました。

また、2020年からの「新型コロナウイルス」の広がりによって、オンラインのプラットフォームがあつという間に普及し、システムに変化が起きました。在宅勤務が増え、地方への移住も進むなど、私たちの生活様式にも動きが出ました。⑥ システムの変化が社会の変化をもたらし、また社会の変化によってシステムも変化するのです。

「コト」は、人間の生活様式から生まれた伝統や文化、教育の類たぐいです。教育を例にとれば、第二次大戦後、それまでの天皇を中心とした専制主義の教育から民主主義教育へと、百八十度変わりました。そしていまは、お金や英語を重視したプログラムも取り入れられるようになりました。時代を反映した教育は、子どものみならず大人の意識も変化させてきました。

伝統芸能の歌舞伎も、時代によって演目の解釈も変わってきていますし、新作歌舞伎も取り入れられています。伝統の型を踏襲しつつ時代に向き合った舞台をつくっています。

3 人間は情報を求める生き物だ

こうした情報は、生まれたばかりの赤ちゃんも利用しています。お腹が空いたときや、おむつを取り替えてほしいときに、赤ちゃんは泣いて知らせます。それを聞いた親はノンバーバル（非言語）である泣き声を、ことばに変換して理解しようとします。

A、赤ちゃんは泣き声で情報を伝えているのです。ノンバーバルな情報は、スポーツなどでもアイコンタクトなどといった形で使われます。選手同士が、プレーのなかで何をするのか、それに対してどう動くのか、を瞬時に理解するサインです。これが成立するの

は、それまでの練習や経験が、選手同士の肉体に直接働きかけることばとして理解されているからです。手話も一つの言語表現としてのことばを持っています。

僕たちは、情報を積極的に求める種類の生き物だと言えます。

ネットがまだ社会に出現していなかった頃は、本が大きな情報源でした。僕自身も、青春時代に抱えた得も言われぬ憤りの解決策を求めて、ひたすら本を読んでいました。それが直接、答えを提示してくれたわけではないにしても、意識や判断、行動への小さな変化の芽を育ててくれたことは確かです。

ネット社会になって、僕たちはほぼ強制的に流れてくる情報から逃れることは不可能になりました。それほど、情報というものに包まれて生活しているのです。ただ、それが意識・判断・行動に変化を与え得るものなのかどうかは、^⑦はなはだ疑問に思うのです。

4 情報を発信する手段としてのメディア

情報はメディアを通して伝えられます。先にメディアについて少し触れましたが、ここでもう少し、メディアについて考えていきます。

メディアというと、少し前までは新聞・ラジオ・テレビなどが代表的な存在でした。それはマスコミと呼ばれ、メディアと発信者が同一の組織にいるという特徴があります。しかも、基本的にメディア側から受信者側へ一方向に情報が流れる仕組みです。

いまは、フェイスブックやX、ユーチューブ、インスタグラムなどのSNSでは、テキストだけでなく映像・音楽もこうしたプラットフォームを使って、自由に発信できる時代です。それぞれ、個人で発信できるという特徴があります。そして、発信者と受信者は双方向で情報のやり取りができます。

さらに言うと、多くの人はSNSがメディアであるという意識を持たないまま、ノートにペンでメモするような手軽さで利用しています。ましてや、これらが巨大メディアであるという意識を持ちません。^⑧ここに、炎上などの問題が含まれているのです。

しかし、こうした時代の流れに逆らうことはできません。むしろ僕は、これからの時代は「自らがメディアになるべきだ」と思っています。そのために、メディアをどう位置づけ、情報をどう扱うかは、とても大きな課題になります。

5 活版印刷と情報改革

⑩ メディアという存在ができるまでは、もともと、情報のやり取りは話しことばによる1対1のパーソナルコミュニケーションが基本でした。せいぜい40人程度の、声の届く範囲の少数に向けて発信されたものです。情報は、いわゆる口コミで広がったのです。ところが話しことばは保存できません。伝言ゲームのように、ことばは人から人に伝えられるにつれて、全く違う内容になることもあります。大勢の人に情報を均質に伝えることは、至難の業なのです。

文字が生まれたときも、それを大量に配布することはできませんでした。中国などでは、竹簡や木簡を使って文字を残しましたが、それを移動させることは、そう簡単ではありません。やがて文字と紙・筆記用具を持つことによって、次第に情報を持ち出せるようになりました。とはいえ、複写は手書きに頼るほかありません。また、情報を大量生産することは難しく、正確性にも問題がありました。

こうした問題を解決したのが、活版印刷です。1517年の宗教改革を支えた要因でもあると言われています。それまで、ラテン語で書かれた聖書は手で引き写したもので、宗教関係者やごく一部の知識人にしか

読むことができない特別のものでしたのです。それをドイツの神学者マルティン・ルターが、ドイツ語に翻訳し印刷することによって、聖書を一般市民に普及させることができたという話は、世界史などで習いました。聖書が印刷メディアとなったのです。つまり、宗教改革は情報改革でもあったのです。

ここでようやく、均質の内容を大量に拡散できるようになりました。そして、科学技術の発達とともに、私たちは長らく新聞・ラジオ・テレビというメディアを通して情報を享受するようになりました。

6 メディアを担う媒体の変化

メディア (media) は、「中間の」「中位の」という意味の英語「medium」の複数形です。メディアは、発信側と受信側の間にあるもの、つまり媒体・手段・方法という意味です。

メディアには、

① 情報を集めること

② 情報を発信すること

③ 情報を保存・蓄積すること

という主に三つの役割があります。メディアによって、同時多数に同じ内容の情報を均一に届けることができるようになったのです。これまでは特に新聞・ラジオ・テレビなどがその役割を担っていました。

新聞は印刷、ラジオは音声、テレビは動画と音声を通して情報を伝えたのです。広告や商品そのものがメディアとなるケースも出てきました。いずれにせよそれは、情報を発信する側 (A) から受け取る側 (B) に向けての流れてした。つまり、メディアは一方方向の情報を載せる記号の乗り物として機能してきました。ラジオは、はがきを通して一部、双方向としての役割も担いましたが、電波とはがきという別媒体を通してのやり取りです。

ところが、インターネットが社会インフラとなるまでに普及すると、SNSがメディアとしての働きを担うようになりました。それまで情報を発信する機能は、メディアを運営する企業が独占していたのに対して、SNS上では、そのプラットフォームを個人が自由に利用して発信することができるようになりました。それによって、情報がAからBへの流れとともに、フィードバックという形でBからAへの、双方向の流れが生まれたのです。これによって、

B

7 個人がメディアとなるときに求められるもの

メディアの在り方が大きく変わったいま、それをうまく利用して個人の発信力を高めることがとても重要になってきます。僕は「自らがメディアになって、自らをプレゼンすること」は、これからの社会にとって、とても重要なテーマになると考えています。世界はネットで瞬時につながる時代です。真のボーダレス社会を実現するためにも、発信力を高めることは重要です。そのためにも、自らが発信する「ことば」について、しっかり責任を取る必要があると思っています。

そして、その「ことば」が人の意識・行動・判断を変化させる「情報」となっていないかではありません。そのためにも、情報の正確さや客観性、人権への配慮などを確認・検証する力を養う事が今まで以上に重要になります。

個人がメディアとなるときに、何を根拠にそれが正しい情報と言えるのかという客観的な検証をどう担保するのかということが、大きな課題となっているのです。暴力的なことばによって、人の命を奪うこともあります。

これは個人だけではなく、一般の企業においてもXでの発言が元で、企画を終わらせなくてはならなかったり、そのアカウントを閉じたりする問題にも発展しています。それが、企業イメージも大きく損ねることもつながる時代です。発信することが自由に、かつ身近になったメリットを得た代わりに、それを受信する側の心情や立場などに、今まで以上の配慮が必要になっていきます。

これまでは、企業という組織のなかに「個」が埋もれていました。しかし、自らが発信する力を養えば、粒立った「個」の集まりが組織をつくる方向にシフトしていくはずですが。組織も生き残り戦略としてセレンディピティ(新しいものを発見する能力)を求める時代にきています。パラレルワーク(副業)も進むでしょう。そのときに、自らの意見・考えをしっかりと伝えて周りを巻き込んでいくことは有効な手段となります。

(前田安正『AIに書けない文章を書く』より)

※(注)

プラットフォーム——ITサービスを動かすのに必要な基盤となるもの。

増幅——物事の程度や範囲を大きくすること。

備蓄——万一のためにそなえてたくわえること。

ファクトチェック——情報が事実にもとづいているかどうかを分析・確認する作業。

専制主義——国家のすべての権力が特定の個人や少数者の手に集中され、その意思のままに自由に政治が行われるような体制。

演目——上演される演劇作品。

踏襲——前任者が確立したやり方や方針を、そのまま受け継ぐこと。

竹簡——紙が作られる以前に文字を記すのに用いた細長い竹の札。

木簡——墨で文字を書いたために使われた、短冊状の細長い木の板。

享受——受け入れて自分のものとする事。

問一 ―― 線① 「LINEやフェイスブック、X（旧ツイッター）」とありますが、「LINE」、「フェイスブック」、「X」について、本文ではどのように説明していますか。次のア～エの中から最も適当なものを一つ選び、その記号を答えなさい。

ア LINEのトーク機能は知り合いや仲間同士で運用されており、オープンなコミュニティを形成していると言える。

イ フェイスブックは「友達」と「公開」などを選択する機能がついており、「閉じられたコミュニティ」を形成することができる。

ウ Xは非公開にすることはできず、いつでも誰でも読むことができ、面識のない人もやり取りができる。「開かれたコミュニティ」を形成している。

エ LINEとフェイスブックは基本的に「開かれたコミュニティ」であるのに対し、Xは「閉じられたコミュニティ」を形成している。

問二 ―― 線② 「炎上騒ぎが起こるのは主にXにおいてです。」とありますが、「Xにおいて」「炎上騒ぎが起こる」のはなぜだと考えられますか。それを説明した次の文の [I] [II] [III] において、[I] [II] [III] は十字以内、[II] [III] は五字以内でそれぞれ文中からぬき出して答えなさい。

Xを [I] である意識しないで利用し、 [II] コミュニティーの中で、「チャット」という [III] コミュニケーション手段を使っているから。

問三 ―― 線③ 「これら」とありますが、「これら」が指している三つものをそれぞれ文中からぬき出して答えなさい。

問四 ―― 線④ 「チャットことば」について説明したものとあてはまらないものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 仲間うちで使われることが多く、はじめから第三者の存在を意識していない。

イ 好き・嫌いきらの判断をせまられるために、過激なことばとなって増幅ぞうぷくする作用がある。

ウ 若者を中心とした仲間うちで使われることばの省略が多く用いられている。

エ 直感的・感覚的なことばであり、読み手の気持ちの動きに大きく影響えいきやうを与える。

問五 ―― 線⑤ 「書きことばを基本としているのは、客観的に第三者に伝わることを前提としているからです。」とありますが、「客観的に第三者に伝わる」ようにするためにはどのようなことに注意して「書きことば」を用いる必要がありますか。文中から十五字でぬき出し、初めと終わりの三字を答えなさい。

問六 —— 線⑥ 「システムの変化が社会の変化をもたらし」とありますが、「システムの変化が社会の変化をもたらし」た具体例として最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 気象予報で台風の強さや今後の進路が伝えられると、飲料・食料の備蓄をはじめたり、早めに避難したりする。

イ Windows 95の登場によりパソコンで原稿を書くようになり、手書きの原稿と印刷されたデータの照合作業がなくなった。

ウ 2020年からの「新型コロナウイルス」の広がりによって、オンラインのプラットフォームがまたたく間に普及した。

エ 第二次大戦後、天皇を中心とした専制主義の教育から民主主義教育へと百八十度変わった。

問七 A にあてはまる言葉を次のア～オの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア あるいは イ しかし ウ また エ つまり オ なぜなら

問八 —— 線⑦ 「はなはだ疑問に思うのです。」とありますが、「はなはだ」の言葉の使い方としてあてはまらないものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 根も葉もないうわさ話が広まり、はなはだ迷惑だ。

イ はなはだ未熟ではありますが、全力をつくすつもりです。

ウ 彼は威厳に満ちた態度で、はなはだ王様のようにふるまった。

エ はなはだ残念なことに、相手の期待に応えられなかった。

問九 —— 線⑧ 「メディア」といって、少し前までは新聞・ラジオ・テレビなどが代表的な存在でした。それはマスコミと呼ばれ、メディアと発信者が同一の組織にいるという特徴があります。」について、次の1・2の問いに答えなさい。

1 従来のメディアである「マスコミ」に対し、現在あらたに登場してきたメディアは何ですか。文中から一語でぬき出して答えなさい。

2 従来のメディアである「マスコミ」は「メディアと発信者が同一の組織にいる」という特徴があると説明されていますが、1で答えた「メディア」にはどのような特徴がありますか。解答らんの「という特徴。」につながるように三十五字以内で説明しなさい。

問十 —— 線⑨ 「ここに、炎上などの問題が含まれているのです。」とありますが、どのようなことの中に「炎上」などの問題が含まれている」というのですか。文中の言葉を使って三十五字以上四十字以内で答えなさい。

問十一

——線⑩「メディアという存在ができるまで」の流れについて、次のようにまとめました。

I

・ II にあてはまる言葉をそれぞれ文中から五字以内でぬき出して答えなさい。

〈情報をやり取りする手段〉		〈可能になったこと〉	
・ 竹筒 <small>ちくかん</small> や木筒 <small>もっかん</small> と筆記用具		・ 情報を保存すること。	
・ 紙と筆記用具		・ 情報を簡単に	I すること。

←

残った問題点：情報を II することが難しく、正確性にも問題がある。

問十二

——線⑪「宗教改革は情報改革でもあったのです。」とありますが、「宗教改革は情報改革でもあった」と言えるのはなぜですか。それを説明した次のア～エの中から最も適当なものを一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 聖書がラテン語からドイツ語に翻訳ほんやくされたことにより、ラテン語を読めない人々とも情報のやりとりをすることが可能になったから。
- イ 聖書が一般市民にも読まれるようになったことにより、一部の知識人だけで情報を独占することが不可能になったから。
- ウ 聖書を一般市民に普及いきまさせるために活版印刷が用いられたことにより、均質の情報を大量に拡散できるようになったから。
- エ 聖書を手で書き写さなくても済むようになったことにより、特別であった情報の価値が大きく下がってしまったから。

問十三

——線⑫「SNSがメディアとしての働きを担になうようになりました。」とありますが、「SNSが」「担うようにな」った、従来の「メディア」の「働き」とはどのようなことを指していますか。解答らんの「ということ。」につながるように文中から十五字以上二十字以内でぬき出し、はじめと終わりの三字をそれぞれ答えなさい。

問十四

B にあてはまる言葉として最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 発信者が受信者に対して自由に意見を述べることはできなくなったのです
- イ 受信者と発信者は明確に区別され、交わることはなくなったのです
- ウ 発信者よりも受信者の方が情報の流れをリードするようになったのです
- エ 発信者が反論はんろんを含めた意見の直接的な受信者ともなったのです

問十五 — 線⑬「メディアの在り方が大きく変わったいま」、どのようなことが大切だと筆者は考えていますか。次のア～オの中からあてはまるものを二つ選び、その記号を答えなさい。

ア 時代に流されずに従来のやり方を守り、自らの意見や考えをしっかりと伝えて周りを巻き込んでいくこと。

イ 自らが発信する際には受信する側の心情や立場に対して十分な配慮をし、暴力的なことばを用いないこと。

ウ 自らがメディアとなり、自らをプレゼンして社会を一つにまとめられるように発信力を高めること。

エ 発信することばが人の意識・行動・判断を変化させる正しい「情報」となっているのかを確認、検証すること。

オ 企業という組織の中に「個」が埋もれないように意識し、自ら発信する力をつけて組織のトップに立つこと。

問十六 次のア～エの中で本文の内容にあうものには○を、あわないものには×をつけて答えなさい。

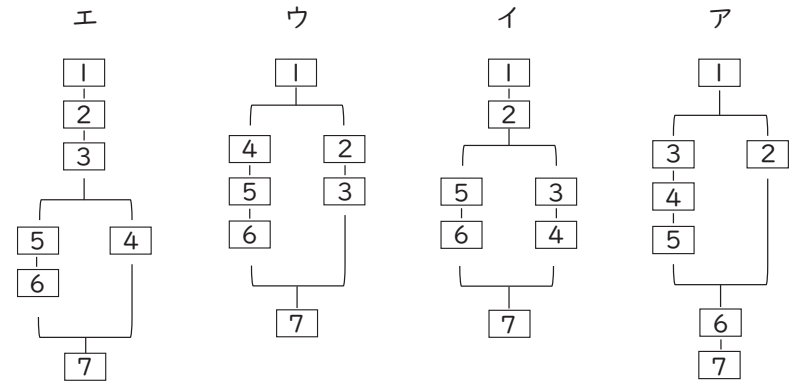
ア テレビでは、ニュース番組だけでなくバラエティー番組においても書きことばを基本とした話しかることが使われている。

イ スポーツで使われるアイコンタクトなどのサインは、ノンバーバルな情報の一例と言うことができる。

ウ メディアには「媒体・手段・方法」という意味があり、発信側と受信側の対立を表すことばである。

エ 「ことばを情報に変えていく」というのは、ことばが人の意識・判断・行動に影響を与えて変化を促すものとなるようにしていくことである。

問十七 この文章の段落構成をまとめたものとして最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。



二 次の漢字と言葉に関する問いに答えなさい。

問一 次の①～⑤の——線部のカタカナを、それぞれ漢字に直しなさい。

- ① 生徒会のあり方についてのトウギを重ねる。
- ② 被災地にカセツ住宅を建てる。
- ③ 古い習わしをダハする。
- ④ 子どものところからのシユクガンを果たす。
- ⑤ イサましい曲とともに入場する。

問二 次の①～④の——線部の漢字の読みを、それぞれひらがなで答えなさい。

- ① 悪銭身につかずという教えを守る。
- ② 時代の潮流を見きわめる。
- ③ 今年はサンマが豊漁だ。
- ④ 紙がちりちりと縮れながら燃える。

問三 後の①～④の言葉について、 にあてはまる漢字一字をそれぞれ入れ、反対の意味となる言葉を完成させなさい。また、 にあてはまる漢字一字をそれぞれ入れ、 に漢字一字を入れて作った言葉と似た意味となる言葉を完成させなさい。

例 結果

<input type="text" value="B"/>	<input type="text" value="A"/>
由	因
【答え】理	【答え】原

① 動作

<input type="text" value="B"/>	<input type="text" value="A"/>
断	止

② 危険

<input type="text" value="B"/>	<input type="text" value="A"/>
事	全

③ 初期

<input type="text" value="B"/>	<input type="text" value="A"/>
局	期

④ 祖先

<input type="text" value="B"/>	<input type="text" value="A"/>
世	孫

問四 次の①～④の文の——線部の語と同じ働きをするものを、後のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、その記号を答えなさい。

① 近所の図書館には探している本がない。

ア 近所のお店で買ってきたこのケーキは、そんなにあまくない。

イ 人気のレストランなので、ランチタイムの空席はまったくくない。

ウ 今回の作業は一人だとたよらないので、二人で進めよう。

エ 大人になっても生きていくかぎり、勉強は終わらない。

② 一人暮らしを始めてから、生まれ故郷のことがしのばれる。

ア 先週発売された新しいタブレットがよく売れる。

イ 校長先生が全校集会で勉強の大切さについて話される。

ウ この町はご当地キャラのおかげで知られるようになった。

エ おりにふれて小学校の時の先生の言葉が思い出される。

③ 先生が卒業式で泣きながら最後の話をした。

ア テレビを見ながら勉強してもあまり成果は期待できない。

イ 弟は小学校に入学したばかりながら、もうかけ算ができる。

ウ 私の兄は生まれながらにして運動の才能を持っていた。

エ この町には昔ながらの建物が数多く残っている。

④ 試合は始まったばかりだから、勝敗のゆくえはわからない。

ア 小学校を卒業してから半年ばかりの時間が過ぎた。

イ 勉強をしないとせっかくな覚えた知識も忘れていくばかりだ。

ウ ぼくは今やって来たばかりで何が起きたのかわからない。

エ 今回の試験では全力を出し切ったので、あとは結果を待つばかりだ。

